

会 議 録

1 名 称 第2回「(仮称)北九州市DX推進計画」策定に関する懇話会

2 議 題 等 (1) 第1回における論点(委員意見)の整理
(2) 「(仮称)北九州市DX推進計画」骨子(案)
(3) 今後5年間での集中取組項目(案)

3 開催日時 令和3年7月20日(火) 13時から14時30分

4 開催場所 株式会社YE DIGITAL 本社10階オンライン会議室(Web会議)

5 出席した者(構成員)の氏名

遠藤 直人 遠藤 禎幸 隈本 寛(座長)
郷田 郁子 勢一 智子

6 経過(構成員発言内容)

【事務局説明】

(1)「第1回における論点(委員意見)の整理」の説明(資料P1から12)

【構成員意見】

○ テレワークを進めるためにはクラウド利用の検討も必要。その際はセキュリティの担保や、コスト面の検討も重要。

【事務局説明】

(2)「(仮称)北九州市DX推進計画」骨子(案)」及び

(3)「今後5年間での集中取組項目(案)」の説明(資料P13から34)

【構成員意見】

○ 市民、特に高齢者がデジタルを活用するための障壁をできるだけ少なくしていくことが必要。

○ DXを推進するにあたっては、そもそもその業務や書類が必要なのか、検討が必要。

○ DXによって職員の生産性が上がり、より身近な場所で高齢者の支援や相談対応をする職員が増えることが、デジタル・デバインド対策につながる。

○ マイナンバーカードを持っていて良かったと思ってもらうことが重要。

- 失敗を恐れず、とりあえずやってみることが大事。
- 改善の旗振りをする人（カイゼンリーダー）が孤立しないよう、カイゼンリーダー同士の横のつながりや、コミュニティがあるとよい。
- 北九州市は高齢化先進都市なので、他の都市のモデルになり得るかもしれない。
- 市を取り巻く現状・課題、将来像を市民・企業・地域としっかり共有することが重要。
- 内部管理事務がDXにより効率化され、職員が直接市民と接する相談・支援などの窓口業務に注力できるような体制を目指すという考え方は、イメージとして非常にわかりやすい。
- 内部管理事務だけでなく、企画立案や事業実施部門についても、DXにより効率化・省力化できる。対面業務や窓口業務も含め、将来的にどのようにシフトしていくのか検討が必要。
- 単にデジタル技術の知見があるだけでなく、DXにより市民サービスを向上させることができる人材の育成が必要
- どのような成果目標を設定するかは難しいが、目指す市役所に直結するため、適切かつ合理的なものとなるよう、検討を進めてほしい。
- 20代・30代前半ぐらいのデジタルネイティブ世代はリアル感を持ってDXを感じられると思うので、若手職員を巻き込み、いろいろな取組に関与させてほしい。

6 用語集

DX（デジタルトランスフォーメーション）

データとデジタル技術を活用して、サービス等を変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、文化、風土を変革し、生活をあらゆる面で良い方向に変化させること。

デジタル・デバイド

インターネットやパソコン等の情報通信技術（ICT、IT）を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差のこと。

デジタルネイティブ世代

生まれた時からインターネットや、パソコン、スマートフォン等が当たり前に存在しており、IT技術の利用やそれらを用いたコミュニケーションに長けた世代のこと。

7 問い合わせ先

デジタル市役所推進室 デジタル市役所推進課

電話番号 093-582-3557